

第15回おやかやま県民文化祭参加

〔主催〕岡山能楽会〔共催〕岡山県〔後援〕岡山県教育委員会・岡山県郷土文化財団・山陽新聞社・岡山能楽振興協会

第47回 岡山後楽能

竹生島

女体

ちくぶしま
によたい

観世 喜之
観世 喜正

平成二十九年十一月三日（文化の日）

正午十二時開演

岡山後楽園 能舞台



仕舞 道明寺 西出 明雄

経正 藤井 章

邯鄲 渡辺清一郎

舞囃子 山姥 益田喜美子

遊行柳 松尾 佳子

高砂 中川真寿男

休憩二〇分

狂言 酢薑 田賀屋夙生

養女 桑田 貴志

龍神 観世 喜之

漁翁 弁才天 観世 喜正

能 竹生島

女体 從臣 喜多 雅人

臣下 福王 和幸

從臣 中村 宜成

社人 島田 洋海

後見

味方 山崎 正道

地謡

河井 美紀 弘田 裕一
鈴木 啓吾 小玉 三郎
遠藤 和久 小林 喜久

終演 午後三時五十分頃

狂言 酢薑 すはじかみ

都へ商売に行く摂津国のはじかみ(生菱 売りと、和泉国の酢売りが出会い、互いに自分の商売の由緒を自慢しあうが、どうにも決着がつかない。そこで、商い物に掛けた秀句で勝負することにする。はじかみは辛いことから「から」を、酢は「す」を織り込んだ句を詠むのだが…。

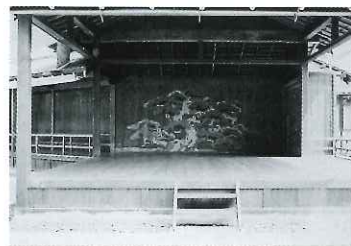
能 竹生島 女体 ちくぶしまによたい

のどかな春の琵琶湖のほとり。醍醐天皇の臣下たちが竹生島の弁才天社を参詣しようとする。一行は老いた漁師と若い女が乗り合わせる釣舟に便乗して竹生島へと渡らせてもらうことにする。

島に着くと、連れの女も一緒に舟を降りたので、臣下が「この島は女人禁制と聞かされた」と老人に尋ねると、「この島は女人往生の島だから女性こそ参るべきだ」と答え、女も「この島のご祭神は女体の弁才天なのだから、女を分け隔てることなどない」と臣下を諭す。そしてふたりは、自分たちは人間ではないと告げて姿を消す。《中人》

社人が現れ、弁才天の由来や遺徳を物語ると、にわかには社殿が鳴動し、光り輝く弁才天が現れ、月光のもと音楽を奏で舞を舞う。さらに、湖底から龍神が現れ、金銀珠玉を臣下に捧げて衆生済度の誓いをあらわすと、天女は社殿に、龍神は波を蹴立てて龍宮へと飛び去っていく。

今回は観世流では珍しい「女体」の小書演出により、通常の演出と異なり、弁才天がシテ(主役)格となつてより、神々しさを増した荘重な風情となり、龍神は白頭の老蚌の龍の姿で現れます。岡山では、初の上演です。



江戸時代初期、築庭を命じた藩主・池田綱政は、能に熱心で優れた舞い手でもありました。昭和20年の空襲で能舞台も焼失したため、現在の舞台は綱政の子・継政時代の遺構をもとに復元。鏡板の老松と右板壁の竹の絵は、郷土の画家・池田遙軒画伯の筆によるものです。

第15回おかやま県民文化祭参加 第47回 岡山後楽能

日程：平成29年11月3日(文化の日) 12時開演/11時30分開場
会場：岡山後楽園能舞台 <http://okayama-korakuen.jp/>
チケット：全席自由 3,000円(後楽園入場券付)

【チケット取扱い・お問合せ】

岡山後楽園 TEL 086-272-1148 ※未就学児の観覧はご遠慮ください